

特色ある取組（平成18年度優良公民館表彰館の紹介）

【施設名】

福島県・福島市西学習センター

【福島市の概要】

福島市は、福島県の中通り地方の北部に位置し、西に雄大な吾妻連邦、東はなだらかな阿武隈高地に抱かれた盆地の都市で、まちの中心部には緑豊かな信夫山があり、また、白鳥の飛来する阿武隈川が流れ、自然豊かで人情あふれる、福島県の美しい県都である。現在、約29万人の人口を擁し、県内の政治・経済・文化の中心都市として着実に発展を続けている。また、高速交通網の整備により、首都圏と東北圏、太平洋圏と日本海圏を結ぶ交通の結節点として重要な位置を占めている。

本市は、四季折々に魅力のあるまちで、中でも花見山を代表とする春の花、そして果物の実りや豊富な味覚、美しい紅葉の秋といった豊かな自然を活かし、「花もみ(実・味・美・見)もある福島市」を統一テーマとし、さまざまなイベントを組みあわせて、人・まち・観光を元気にする取り組みを行っている。

【西地区・西学習センターの概要】

当館が担当する西地区は福島市の西南に位置し、佐倉・荒井・土湯温泉町の3地区からなり、佐倉地区には各種企業が立地し、荒井地区には自衛隊や官公庁の出先機関等の公共公益施設が集中しており、また土湯温泉町地区は自然環境に恵まれた温泉郷となっているが、西地区全体としては静かな農村のたたずまいを残している。

当館は昭和40年、管内にある公民館の本館として旧中学校の校舎を転用し開設され、その後昭和59年に鉄筋コンクリート二階建て（773.6㎡）として現在地に建設された。

本市では、平成16年度まで市内に15館の公民館と、条例に基づき市民が生涯を通じて行う学習活動を支援するため、地域学習センター3館を設置していた。

こうした中、平成17年度、社会教育事業をさらにレベルアップするとともに、今後ますます多様化・高度化する市民の学習ニーズに対応するため、公民館と地域学習センターの一体化を図り、学習センターとして15館を配置した。

このこととともない、当館も平成17年度に西公民館から西学習センターに改称された。



【特色ある取組】

(1) 西いきいきふれあい合宿

近年、少子化や核家族化などによる子ども同士の交流機会の減少や子どもたちの実体験の希薄化が指摘されている。

このような中、当地区では、学習センターと地域の実行委員会が中心となり、平成14年度より通学合宿を実施してきた。

この事業は、子どもたちが親元を離れ、子ども同士が寝食をともにすることにより、共同生活に伴うコミュニケーションの中から人間関係を深め、ともに生きることの喜びを体感するとともに、調理や買物、掃除、洗濯などを体験しながら、自立心や協調性、さらには社会規範などを身につけることを目的としている。

また、実施にあたり地域の団体の方々に実行委員として参加していただくことにより、団体及びボランティアの育成・助長を図るとともに、教員をめざす大学生ボランティアに子ども達の学習指導や身の回りの世話等をお願いし、子ども達との異世代交流を行っている。

開催期間は4泊5日、実施会場は管内にある大型の県立運動公園内の合宿所を利用し、参加対象は小学校4年生から6年生としたが、合宿所から通学するため、参加児童は通学可能な位置にある1校だけの児童となってしまった。しかし、同校の4～6年生全員が参加した。



また、合宿終了後、参加者の保護者にアンケート調査を実施するとともに、参加者及びその保護者に感想文を提出していただき「活動記録」として冊子を作成し、次年度事業計画の参考資料とした。

(2) わくわく交流通学合宿

前述のように、平成14年度から通学合宿事業として「いきいきふれあい合宿」を実施してきたが会場から通学可能な小学校の児童を対象としているため、管内4校のうち参加できるのは1校の児童のみであった。

このような中、地域の方から、参加できないでいる小学校の児童にも、通学合宿を体験させてあげたいという声が、年々多く聞かれるようになってきた。

こうした声を踏まえ、平成17年度に、新たに立ち上げた通学合宿事業が「わくわく交流通学合宿」である。

開催期間は、会場の西学習センターに洗濯機がないため、持参した着替えで対応可能な2泊3日とし、参加対象は従来から実施してきた通学合宿と異なった特色を持たせるため、学校行事での宿泊体験がなく、また親元からあまり離れた経験のない小学校3～4年生、15名とした。

活動内容としては、調理・買物等のほか、当館には入浴施設が設備されていないため、地域の方々の協力により、一般家庭の風呂を子供たちが利用させていただく「もらい湯」を取り入れ実施した。



(3) その他の少年教育

当館では、小学生を対象として、地域の恵まれた自然とのふれあいや遊び・集団生活を通して協調性や創造性を養い、心身ともに健全な育成を図るため、年間10回開催している「子どもクラブ」、子ども達に様々な職業を見学・体験させることにより、少年期から仕事に対する興味関心を深め、働くことの意義を学び、考えてもらうため年間5回開催している「子ども仕事じゅく」、歴史に興味のある小学生を対象として、講師に大学生等を迎え、異世代交流を図るとともに、年間5回様々なアプローチで楽しみながら学習することを通して、学ぶ意欲を高めていく「子ども歴史じゅく」などの少年教育事業も展開している。